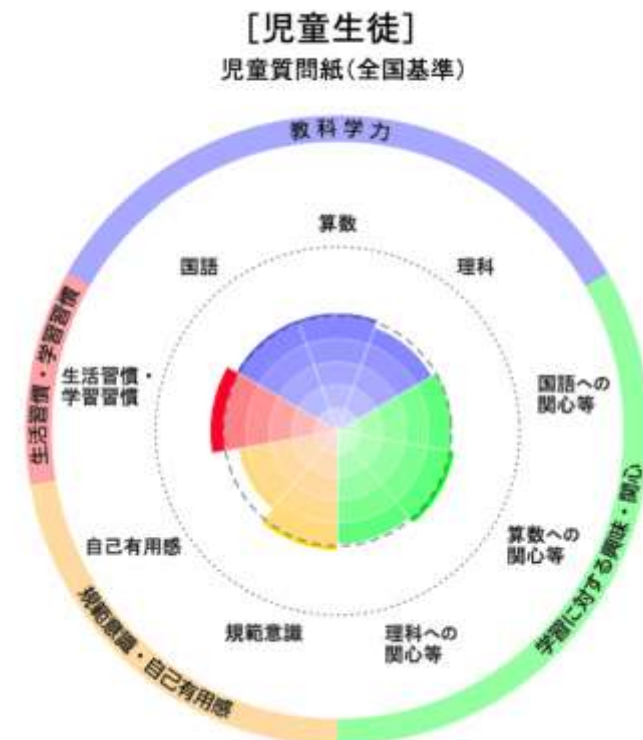


令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

令和4年4月19日(火)に実施しました、6年生の全国学力・学習状況調査の結果ができましたので、お知らせします。

全体的な傾向

- 学習への興味・関心が高く、子どもたちが楽しんで授業に取り組んでいることが分かります。本校が大切にしている、子ども主体の授業づくりが良い影響を与えていると考えられます。
- 規範意識が高く、他者との関わりの中でお互いに気持ちよく過ごそうとする態度が育っていることが分かります。本校の教育活動の特色でもある大岡の時間や、なかよしグループ活動などを通じた学級の仲間や他学年の仲間、地域の人との豊かな交流が良い影響を与えていると考えられます。
- 自己有用感が全国平均と比較してやや低いことが示されました¹。要因については、慎重な分析が必要ですが、引き続き一人ひとりの子どもを大切にしたい授業づくり、児童指導を行っていきます。
- 教科学力については、概ね全国平均と重なりました。今年度は理科が調査の教科として追加されましたが、やや全国平均を下回りました。昨年度のコロナ禍における理科室使用や実験器具使用の制限の影響も表れていると考えられます。詳しい分析は次ページ以降で説明します。
- 児童質問紙(45)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」、(40)「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対して、肯定的に答えた子どもの割合がそれぞれ 79.6%(全国比+6.9%),78.4%(全国比+6.2%)でした。これらの質問は、肯定的に答えている子どもほど教科学力が高いという相



¹「自尊感情」は自分に対して肯定的な感情を抱いている状態を指し、「自己有用感」は人の役に立った、人から感謝された、認められたという実感を抱いている状態を指します。日本の子どもの場合は、「褒めて自信をもたせて育てる」よりも、「他者に認められて自信をもって育つ」という発想の方が自信が持続しやすいと言われてしています。(参考：『生徒指導リーフ』国立教育政策研究所)

関関係が文科省の統計からも明らかになりました。本校の特色でもある大岡の時間の充実が図られ、その中で一人ひとりの子どもの探究する力が育まれているとともに、それが教科の学習の力にもつながっていると考えられます。

- 質問(16)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に答えた子どもの割合が92.1%(全国比+6.7%)でした。子どもが豊かな人間関係の中で、日々の学習活動に意欲的に取り組み、力を伸ばしていると考えられます。また、教職員がチームとなっていていろいろな面から子どもを見て、サポートする体制づくりも良い影響を与えていると考えられます。

引き続き、子どもたちを中心に置いた教育活動を展開できるよう、教職員一同、工夫を重ね努力していきたいと思えます。

各教科ごとの分析

<国語>

【解答の状況】

区分	平均正答率	全国比
言語の特徴や使い方に関する事項	64.4%	-4.6%
我が国の言語文化に関する事項	74.7%	-3.2%
話すこと・聞くこと	69.0%	+2.8%
書くこと	51.7%	+3.2%
読むこと	71.0%	+4.4%

【今後の指導の改善策】

- 言語の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する知識や技能の定着に課題がみられます。漢字の読み書き、言語の使い方などについて正しく理解するために、指導すべきことはしっかりと教え、知識の定着を図ります。また、語彙を増やし、適切な言語を用いて表現する活動も大切にしていきます。
- 話合いの学習活動や、文章で考えを表現する活動の充実が伺えます。本校の特色である大岡の時間でも、国語で培った資質・能力を発揮する場面が多いことから、一定の効果が出ているのではないかと考えられます。
- 「話すこと・聞くこと」について、多様な話す活動、聞き合う活動を継続し、聞き手に効果的に伝わりやすい表現の仕方や話の構成を工夫する活動、話し手の伝えたい内容の中心や意図を捉え、自分の考えと比較して聞き、考えをまとめる活動を取り入れます。
- 「書くこと」について、提案文、意見文、説明文、紹介文など、文章を目的や意図に応じた形式をしっかりと教え、文章全体の構成や表現の仕方を工夫する活動を取り入れます。
- 「読むこと」について、目的に応じて必要な情報を見つけ、読み取る活動を取り入れます。

<算数>

【解答の状況】

区分	平均正答率	全国比
数と計算	68.2%	-1.6%
図形	67.6%	+3.6%
変化と関係	48.6%	-2.7%
データの活用	70.8%	+2.1%

【今後の指導の改善策】

- 図形をかいたり、数値をグラフに表したりするなど、実際の操作活動を通して学ぶことで、内容が定着していることがうかがえます。引き続き、子どもの関心を高めるための効果のある操作活動を授業に取り入れていきます。
- 整数や小数、分数のしくみや働き、百分率を応用した処理に課題がみられます。そのため、十進法による位取り表、線分図や数直線を用いた数の大きさの比較などを通して正しく理解できるようにします。また、計算方法やしくみを順序立てて、正しく説明したり、自分の考えの道筋を確かめたりする力を伸ばす機会を授業の中に積極的に取り入れていきます。

<理科>

【解答の状況】

区分	平均正答率	全国比
「エネルギー」を柱とする領域	49.1%	-2.5%
「粒子」を柱とする領域	55.2%	-5.2%
「生命」を柱とする領域	74.1%	-0.9%
「地球」を柱とする領域	64.1%	-0.5%

【今後の指導の改善策】

- 領域に限らず、問題解決を通して得た知識の理解度に課題がみられます。学んだ知識をより深く理解できるような指導をおこなっていきます。たとえば日常生活の中の現象面について、学んだ知識を活用して説明する学習などを取り入れていきます。
- 領域に限らず、観察や実験などで得られた結果を適切に記録する技能に課題がみられます。学習課題を的確に把握して、何を、どのように記録する必要があるか検討する場面を重視します。
- 領域に限らず、観察や実験の結果をもとに、自分や友達の気づきをもとに分析して、より妥当な考えをつくりだすことに課題がみられます。観察や実験の結果を視覚的に捉えられるようにするとともに、数量や変化の大きさなど特徴ある部分を見つけ、自分の考えをもつこと、またそれを友達と話し合うことを大切にしていきます。